

The background features a large, semi-transparent Rotary International logo. It consists of a yellow gear with a blue band around its center. The word "ROTARY" is written in white on the top half of the blue band, and "INTERNATIONAL" is written in white on the bottom half. The gear has a white center with a blue triangle.

【事例紹介】

ろう者とのフットサル交流会

**札幌東ロータリークラブ
社会奉仕委員会**

▼事業の背景

きっかけは周年記念事業



2019年3月

札幌東RCの60周年記念事業として、
ろう者である「**松森果林**」様に

「**聞こえる世界から聞こえない世界へ
そして共に生きる社会へ**」

というテーマの講演をしていただいた
ことがきっかけとなりました。

▼事業の目的

聞こえない世界を知る



「**見た目では分からない**」

「**サイレンもアナウンスも聞こえない**」

「**困っても電話ができない**」

「**聞こえない世界**」を理解するには、自らその世界に足を踏み入れ、そこで生きるろう者と繋がる必要があります。

▼事業の概要

ろう者とのフットサル交流会



主催：札幌東ロータリークラブ

共催：北海道ろう者サッカー協会

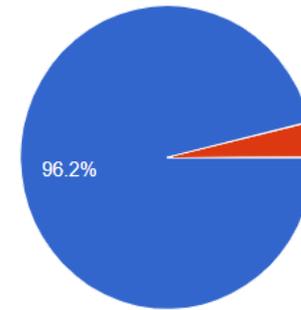
協力：北海高校インターアクトクラブ
札幌視聴覚障がい者協会

ろう者も健聴者も、大人も子どもも、
男性も女性も、「**みんなが楽しめる**」、
「**みんなが繋がる**」スポーツ交流会。

▼満足度96.2%の理由

地域のプロと連携

また参加したいと思いましたが？
【53件の回答】



- ぜひ、また参加
- どちらとも言えない
- 参加したくない



▼フットサル教室
エスポラーダ北海道関係者

▼子どものスポーツ体験
リーフラス株式会社

▼手話通訳
札幌視聴覚障がい者協会

▼フットサル交流
北海高校サッカー部など

▼活動の様子

拘りは「参加型事業」



高橋会長によるPKチャレンジ



楽しくウォーミングアップ



井上会長エレクトと子ども達の交流



留学生も一緒に参加

「**主役は参加者全員**」。
開会式で簡単な手話講座を受け、
フットサル教室やスポーツ交流
では耳栓をして聞こえない世界を
体験。
ロータリアン含め、みんなが体を
動かしながら交流を深めました。

▼補助金の活用

財団補助金プログラムを活用

クラブの参加資格認定:覚書(MOU)

ロータリー財団

1. クラブの参加資格
2. クラブ役員の責務
3. 財務管理計画
4. 銀行口座に関する要件
5. 補助金資金の使用に関する報告
6. 書類の保管
7. 補助金資金の不正使用に関する報告

1. クラブの参加資格
クラブは、ロータリー財団の
財団(以下「財団」)から提供

ロータリー財団補助金プログラム申込書 (2021-22)

国際ロータリー第2510地区

ガバナー

大日向 豊吉

殿

ロータリー財団委員長

熊澤 隆樹

殿

1. 札幌東ロータリークラブ

2021 年 5 月 28 日

クラブ名

提出月日

2. プロジェクト、実施場所および主旨を記述して下さい。

札幌東ロータリークラブ/社会奉仕委員会

社会奉仕プロジェクト「ろう者と健常者との交流フットサル教室」

実施場所：札幌大学体育館

実施主旨：現状社会では、ろう者に対する社会認知度が低く、必要な支援が行き届いていない。また、ろう者団体は発信力が低く、社会に自身の現状を伝えることができていない。この事業を通じて、健常者とろう者の交流を図り、健常者にろう者の状況を知るきっかけを与え、ろう者の状況を社会が理解できるよう支援したい。ろう者と健常者の双方を対象としたフットサル教室を開催し、その中でろう者と健常者間でコミュニケーションをとる機会を設け、終了後に食事を開催し、相互理解を図る。加えて会員を含む参加者全

事業費約「**80万円**」。

手話通訳者の派遣費、指導者の派遣費、
会場使用料、募集チラシの印刷代など…

その内「**50万円**」を、
財団の補助金で補填する
ことで開催できています。

▼ 継続事業

継続による効果と持続可能な支援



【2018年11月】

ろう者の悩みを理解することは簡単ではありません。

しかし我々がきこえない世界と「**繋がり続ける**」ことで、回を重ねる毎に世の中に理解者が増えていきます。



【2019年11月】



【2022年4月】

事業内容の向上はもちろんですが、きこえない世界への「**支援の絆**」が育まれていることも実感しています。

ご清聴ありがとうございました

